

所属（ 郷土文化学習交流室 ） 担当者（ 白木英敏 ） 内線（ 307 ）

タイトル
・宗像の名を冠する鉱物「宗像石・ムナカタアイト」について
概要（発表内容を簡単に記入してください）
「宗像石」は世界新発見の鉱物として平成19年12月にIMA（国際鉱物学連合）とCNMNC（新規鉱物命名分類委員会）で認定されています。 平成24年春オープンの郷土文化学習交流施設において、宗像遺産のひとつとして写真パネルなどで紹介し、自治体の名を冠する鉱物としてPRしていきます。
内容（発表内容のポイントを記入してください。別紙資料でも可能）
発見の経緯は、香川県在住の鉱物愛好家が宗像市河東鉱山で採集し、観察の結果、周知の鉱物ではないと見て国立科学博物館へ持ち込み、詳細な化学分析の結果、世界新発見であることがわかりました。 宗像石の外見は、微細な針状結晶の集合体で、中心から外側へと放射状に明青色の針のような結晶が成長し、ガラスや真珠のような光沢を持っています。青鉛鉱（せいえんこう）などの一般的な鉱物に似ていたため、新種の鉱物と気付けられるのが遅れました。 名称は、鉱物学界では発見者の名前を付けることは許されておらず、お世話になった先生や先学者、あるいは今回のように産出地の地名を付けられます。なお、当初は「河東石(KATOITE)」という名前が候補に挙がっていましたが、すでに「加藤石」が存在しており、英語表記が同じになってしまうため、自治体の名前にちなんだ「宗像石(MUNAKATAITE)」が採用されました。 宗像石の詳細については、学術論文の執筆代表である国立科学博物館（平成23年3月に定年退職し、現在同博物館名誉研究員）の松原聰さんに伺い、写真の提供を受けました。
本件に関する報道関係者の方のお問い合わせ先
・宗像市郷土文化学習交流室（Tel 0940-36-1540） 白木英敏